



「園長先生、あさがおくみのバッチが欲しいです!」「私はピンクのバッチにしてください!」

このところ、廊下や教室・職員室で、つぼみ・年少・年中児達からこんな声を掛けられるようになりました。4月からの進級に向けて、期待を膨らませ始めたようですね(笑)



つい最近まで、のんびりと後片付けや準備をしていた子達も心なしかテキパキと動くようになり、教師達の話もしっかりと聞くようになったりと… 進級に向けて、自覚が芽生えてきたようです(*^^*)

一方で、卒園を間近に控えた年長児達は、白ゆり幼稚園を巣立つという実感が湧いてきたのか、教師達にこれまで以上に「甘える、姿が見られるようになりました(笑) 男の子も女の子も、担任の背中にくっついたり、膝の上で気持ち良さそうに会話を楽しんだり… そんな様子を見て、一段と寂しさが込み上げる今日この頃です(涙)

♪月♪今年も「ドラマ、がありました」♪月♪

白ゆり幼稚園冬の恒例行事「ちびっ子相撲大会」が盛大に行われました。今年で53回目を迎え、毎年数々の「ドラマ、が生まれますが、今年も白熱した闘いが繰り広げられましたよ(笑)

勝って大喜びする子… 負けた悔しさから泣き崩れる子… 幼いながらも、全力で取り組む姿に、心と体の成長した姿を見ることができました。

クラスの予選会から、普段は仲の良い仲間も、この時ばかりはライバルとして、クラス代表を目指して互いにしのぎを削ってきました。

残念ながら代表になれなかった子も、本戦では、声を枯らして仲間を応援… そんな仲間の応援に応えるように本気でぶつかり合う代表の子達…

互いに競い合う経験は、子供達の『育ち合い』に必要不可欠です!

「ちびっ子相撲大会」も子供達の心と体の成長に繋がる大切な行事のひとつですね(笑)



☆☆☆お別れ会☆☆☆

3月11日(火)は、年長児達と進級児達との「お別れ会」です。全園児がホールに集まり、ゲーム大会やおやつPARTYで盛り上がります(笑)

この日の昼食は、全園児が「お弁当、です。幼稚園をレストランに変身させ、職員室・トイレ・収納庫以外であれば、つぼみぐみから年長児まで、学年・クラスに関係なく、好きな場所で好きな友達と「LUNCH TIME」を楽しみます(笑) *お弁当を必ず持たせて下さい。

縁を生かす ～与えられた縁をどう生かすか～

故理事長が、毎年、卒園児の保護者にお伝えしていたお話です。

その先生が五年生になった時、一人、服装が不潔でだらしく、どうしても好きになれない少年がいた。中間記録に先生は、少年の悪いところばかりを記入するようになっていた。ある時、少年の一年生からの記録が目にとまった。「朗らかで、友達が好きで、人にも親切。勉強も良くでき、将来が楽しみ」とある。「間違いだ!他の子の記録に違いない!」と、先生は思った。

二年生になると「母親が病気で世話をしなければならず、時々遅刻する」と書かれていた。三年生では「母親の病気が悪化、疲れていて居眠りをする」三年生の後半の記録には「母親が病死、希望を失い悲しんでいる」とあり、四年生になると「父親は生きる意欲を失い、アルコール依存症となり、子供に暴力をふるう…」先生の胸に激しい痛みが走った。

ダメと決めつけていた子が突然、深い悲しみを生き抜いている生身の人間として、自分の前に立ち現れてきたのだ。放課後、先生は少年に声を掛けた。「先生は夕方まで教室で仕事をやるから、あなたも勉強をしない?わからないところは教えてあげるから…」少年は初めて笑った。それから毎日、少年は教室の自分の机で予習復習を熱心に続けた。

授業で少年が初めて手を挙げた時、先生に大きな喜びが湧き起こった。少年は自信を持ち始めていた。クリスマスの午後だった。少年が小さな包みを先生の胸に押しつけてきた。後で開けてみると、香水瓶だった。亡くなったお母さんが使っていた物に違いない。先生は、その一滴を付け、夕暮れに少年の家を訪ねた。雑然とした部屋で独り本を読んでいた少年は、気が付くと飛んできて、先生の胸に顔を埋めて叫んだ。「ああ、お母さんの匂い!今日は素敵なクリスマスだ!」

六年生ではその少年の担任ではなくなった。卒業の時、先生に一枚のカードが届いた。「先生は、僕のお母さんのようです。そして、今まで出会った中で一番素晴らしい先生でした」それから6年…またカードが届いた。「明日は高校の卒業式です。僕は五年生で先生に担任をしてもらってとても幸せでした。お陰で、奨学金を貰って医学部に進学することができます。」

十年を経て、またカードが…そこには、先生に出会えたことへの感謝と父親に叩かれた体験があるから患者の痛みがわかる医者になれると記され、こう締めくくられていた。「僕は、五年生の時の先生を思い出します。あのままダメになってしまう僕を救って下さった先生を神様のように感じます。大人になり、医者になった僕にとって最高の先生は、五年生の時に担任をして下さいました先生です!」そして一年…届いたカードは結婚式の招待状だった。「母の席に座して下さい!」と一行、書き添えられていた。

たった一年間の担任の先生との縁…その縁に少年は無限の光を見出し、それからの人生を生きた。人は誰でも無数の縁の中に生きている。大事なものは、与えられた縁をどう生かすかである。